

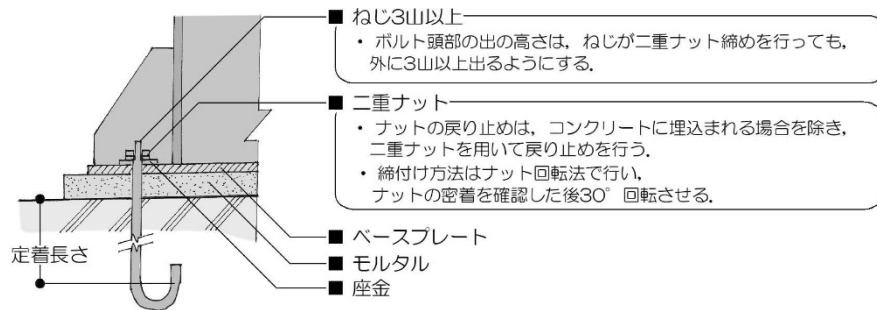
施工 演習 4 (解説)

ウラ模試 1

[No.15] 解説 正答—2 【正答率 79%】

1. JASS6

ボルト頭部の出の高さは、特記による。特記のない場合は、ねじが2重ナット締めを行っても外に3山以上出ることを標準とする。
よって正しい。



2. JASS6

建築物の倒れの管理許容差は、建築物の高さの1/4,000に7mmを加えた値、かつ30mm以下とする。よって誤り。

建方精度

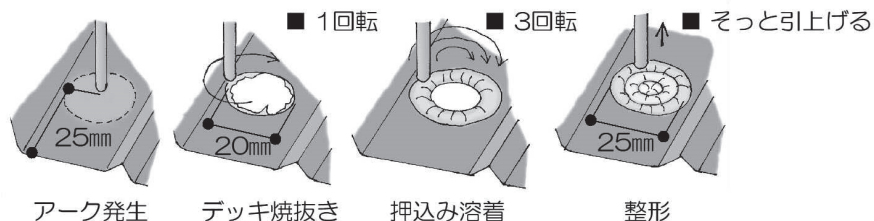
名称	図	管理許容差	限界許容差
建物の倒れ e		$e \leq \frac{H}{4000} + 7\text{mm}$ かつ $e \leq 30\text{mm}$	$e \leq \frac{H}{2500} + 10\text{mm}$ かつ $e \leq 50\text{mm}$
柱据付け面の高さ ΔH		$-3\text{mm} \leq \Delta H \leq +3\text{mm}$	$-5\text{mm} \leq \Delta H \leq +5\text{mm}$
工事現場 継手階の階高 ΔH		$-5\text{mm} \leq \Delta H \leq +5\text{mm}$	$-8\text{mm} \leq \Delta H \leq +8\text{mm}$
梁の水平度 e		$e \leq \frac{L}{1000} + 3\text{mm}$ かつ $e \leq 10\text{mm}$	$e \leq \frac{L}{700} + 5\text{mm}$ かつ $e \leq 15\text{mm}$
柱の倒れ e		$e \leq \frac{H}{1000}$ かつ $e \leq 10\text{mm}$	$e \leq \frac{H}{700}$ かつ $e \leq 15\text{mm}$

3. JASS6

スタッド溶接の仕上がり高さの限界許容差は、指定した寸法の±2mm以内、傾きの限界許容差は5°以内とする。なお、スタッド溶接後の打撃曲げ試験については15°まで曲げても割れなどの欠陥が生じないことを確認する。よって正しい。

4. 建築工事監理指針

デッキプレートに鉄骨部材に溶接する場合は、デッキプレートを梁に密着させ、特記のない限り、デッキ合成スラブの場合には、床スラブから伝達される面内せん断力に対し十分耐えられるように焼抜き栓溶接を行う。ただし、スタッドが特記されている場合は、焼抜き栓溶接を省略し、アークスポット溶接を行う。よって正しい。



ウラ模試 2

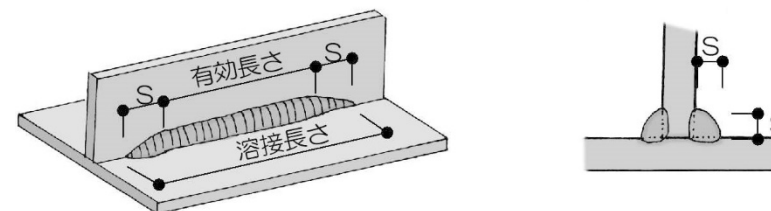
[No.12] 解説 正答—1 【正答率 60%】

1. 建築工事監理指針

隅肉溶接部の有効面積は、「溶接の有効長さ」×「有効のど厚 a」により求める。なお、溶接の有効のど厚 a は、溶接のサイズ S の 0.7 倍となる。よって誤り。

図	管理許容差	限界許容差
	$0 \leq \Delta a \leq 0.4s$ かつ $\Delta a \leq 4\text{mm}$	$0 \leq \Delta a \leq 0.6s$ かつ $\Delta a \leq 6\text{mm}$

L : 脚長 S : サイズ a : のど厚 Δa : 余盛高



2. JASS6

高力ボルト孔の孔あけ加工は、原則は製作工場などでのドリルあけとする。ただし、特記により、高力ボルト孔、ボルト孔、アンカーボルト孔及び鉄筋貫通孔をレーザ孔あけとする場合、溶損部を含む孔径の精度は±0.5mm以下とする。溶損部は応力上、支障の少ない位置とする。よって正しい。

3. 建築工事監理指針

降雨時の締め付けは、ボルト、ナット等は水分の付着により、表面の状態が変化し締め付け軸力が変動する。したがって降雨時に締め付け作業を行ってはいけない。よって正しい。

4. 建築工事監理指針

溶融亜鉛めっき高力ボルトの孔の径は、めっきの付着による径の拡大を考慮して、孔を大きくすることはしない。F8T 相当の M20 の溶融亜鉛めっき高力ボルトの孔径も F10T の M20 の高力ボルトの孔径も 22mm とする。よって正しい。

ウラ模試 1

[No.16] 解説 正答—4 【正答率 51%】

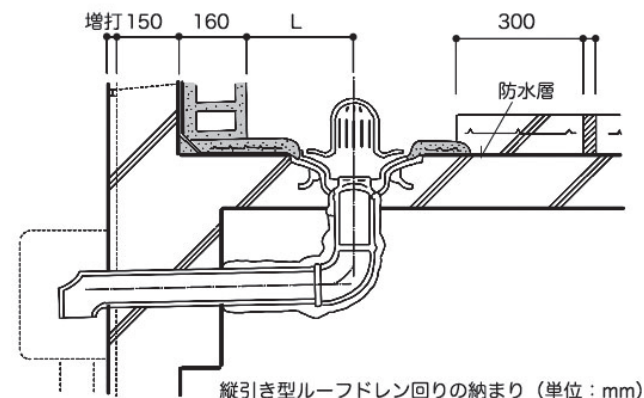
1. JASS8

ドレンや貫通パイプ回りは、防水施工の段階でシート類の補強を行うので、立上りの際に接近していると、これらの作業が不確実になり不具合の原因となるので、これらの施工が確実にできるように、立上り部からある程度離す必要がある。

ルーフトレン径が 150mm の場合は、400mm 程度離せば良いので正しい。

ルーフトレン径とその芯から外壁面までの距離

ルーフトレン径 C mm(in)	80 (3)	100 (4)	125 (5)	150 (6)	200 (8)
中心距離 L mm	325	350	375	400	425

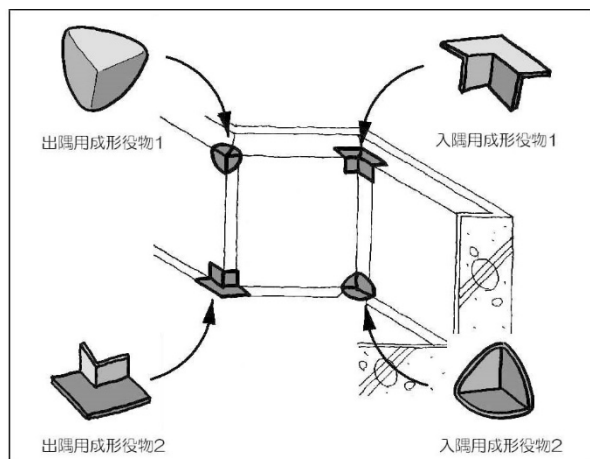


2. 建築工事監理指針

出入隅角の処理は、ルーフィングシートの種類により出隅角の処理方法が
違う。

- ・『加硫ゴム系（合成ゴム系）シート防水』：シートの張付けに先立ち下地の
出隅角に非加硫ゴム系シートを張り付ける。
- ・『塩化ビニル樹脂系（合成樹脂系）シート防水』：シートを張付けた後、
出入隅角に成形役物を張り付け、その端部はシール材を用いて処理する。
- ・『エチレン酢酸ビニル樹脂系シート防水』：シートの張付けに先立ち、
出入隅角に成形役物を張り付ける。

よって正しい。



3. JASS8

シート防水の接合 シートの接合部は、原則として水上側のシートが水下側
のシートの上になるように張り重ねる。平場のシートの接合幅は加硫ゴム系
シートおよびエチレン酢酸ビニル樹脂系シートの場合で(長手方向・幅方向
とも)100mm、塩化ビニル樹脂系シートの場合で(長手方向・幅方向
とも)40mm とする。ただし、加硫ゴム系シートの立上りと平場の接合幅は
150mm とする。よって正しい。

防水層の種 類	シートの種類	接合方法	平場の接合幅	平場立上りの接合幅	
合成ゴム系	加硫ゴム系シート	接着剤による接合	長手・幅 100mm	150mm	
合成樹脂系	塩化ビニル樹脂系シート	溶着剤または熱風による接合	長手・幅 40mm	40mm	
	エチレン酢酸ビニル樹脂系シート	ポリマーセメントペーストによる接合	長手・幅 100mm	100mm	

4. JASS8

アスファルト防水工事の屋根露出防水絶縁工法において、一般平場部の
最下層には、アスファルトプライマー塗りの後に、粘着層付改質
アスファルトシートまたは砂付穴あきアスファルトルーフィングを
張り付ける。アスファルトプライマー塗りの後にストレッチルーフィングを
全面にわたって張り付けるのは密着工法である。よって誤り。

ウラ模試 2

[No.19] 解説 正答—1 【正答率 63%】

1. JASS26

ビニル幅木の張り付けに使用する接着剤は、酢酸ビニル樹脂系溶剤形接着剤（垂直面用）を使用し、仕上がり天端いっばいに塗布すると接着剤がはみ出して壁面を汚染するので、幅木の仕上がり天端より 2mm 程度低い箇所に墨打ちを行い、くし目ごてを用いて塗布する。よって誤り。

2. 公共建築工事標準仕様書

フラットケーブルは、タイルカーペットの中央付近に敷設し、フラットケーブルの端とタイルカーペットの端（目地）との間隔は、100mm 以上とする。よって正しい。

3. 建築工事監理指針

メタクリル樹脂系塗床材は、無溶剤形塗床材の 1 種類で、速硬化性に富む、耐薬品性に優れる、低温硬化性に富む等の特徴があり、厨房や冷凍倉庫、食品工場等に用いられる。一般に、プライマー、ベースコート及びトップコートから構成される。よって正しい。

4. 建築工事監理指針

特殊表面仕上げボード類の壁張りは、接着剤が硬化するまで、とんぼ釘で 300mm 間隔程度に目地部分を押さえるか、900mm 間隔程度に添え木を流して斜材で押さえる。よって正しい。

